

第9章 醸成されるグローバル WiMAX 拡大基盤

モバイル WiMAX がグローバル拡大の基盤を整えたきっかけは、固定型 WiMAX の商用化の柱であった小規模 ISP ではなく、メジャーの固定・移動通信事業者が次々と採択を発表してから、可視化されている。KT はモバイル WiMAX の常用サービスが可能であることを証明し、スプリント・ネクステルのモバイル WiMAX の選択は、世界通信業界がモバイル WiMAX に注目するきっかけとなった。

また BT の採用発表は、モバイル事業部門のない固定系事業者のベンチマーキングの事例となった。Clearwire は固定と移動通信事業者の間の差別化戦略を見せるだろうと期待されている。

(1) メジャー通信事業者

① 移動通信事業者

・スプリント・ネクステル

米3位の移動通信事業者であるスプリント・ネクステルの発表は、次の3つの点で意味がある。まず、モバイル WiMAX の常用サービスが開始された最初の事例ということで意味がある。また、4G 技術の商用化によるグローバル市場での採用でグローバル拡大の支援が期待されている。特定地域での採用は、活用された段階から発展して、モバイル WiMAX の拡大のきっかけとなった。

2番目はスプリント・ネクステルの採用は世界最大の市場である米国でモバイル WiMAX が拡大されるきっかけとなったという点である。韓国が先駆けて WiBro サービスが常用化されたが、WiBro は韓国が独自の開発した技術であり、グローバル市場拡大の決定的なきっかけにはなれなかった。しかし、アメリカや韓国、インド、インテルやモトローラなどのモバイル WiMAX を実質的にリードしている企業が、世界最大の市場である米国でモバイル WiMAX を採用したことは、世界通信業界がモバイル WiMAX に注目する直接的なきっかけになった。

3番目はスプリント・ネクステルの移動通信事業部門が、モバイル WiMAX でどんなビジネスモデルを披露したかにも観戦ポイントである。モバイル WiMAX は 4G 技術であり、多様な端末とプラットフォームを利用した「開放型ユビキタスビジネスモデル」を展開すると発表して注目を集めた。しかし、今後は Rev.A のカバレッジを拡張した後、モバイル WiMAX 網構築の投資に踏み切り、完全開放よりは漸進的な開放モデルを先に選択するとしている。

